

会 議 録

会議の名称	子育て支援計画策定委員会（第6回）
開催日時	平成15年2月6日（木） 午前9時30分から正午まで
開催場所	田無庁舎1階102会議室
出席者	（委員）森田委員長、有澤副委員長、安藤委員、川又委員、片山委員、田口委員、武田委員、本間委員、古荘委員（欠席 出川委員） （事務局）富田課長、田島 （コンサルタント）高屋、山領 （傍聴者）3名
議 題	（1）会議録の承認について （2）個別調査の報告 （3）「西東京市子どもデータブック」について
会議資料	1 会議録（第5回西東京市子育て支援計画策定委員会） 2 資料 「西東京市子どもデータブック」の目次構成（案） 3 資料 「西東京市子どもデータブック」のレイアウト（案） 4 資料 作業スケジュール（案） 5 資料 「子育て支援団体等アンケートの結果」概要
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
森田委員長	開会宣言
事務局	議題1 会議録の承認について 訂正の依頼があり、それを直したものを今回提示した。
	議題2 個別調査の報告
森田委員長	昨年度行ったアンケート調査を補足するため、本年度の秋に子育て支援団体や子育てに関する施設の利用者に対してアンケート調査を行った。 児童館・児童センターを利用している保護者、ピッコロハウスを利用している保護者、ひよっこに通っている子どもの保護者、ひいらぎに通っている子どもの保護者、子育てサークル、児童館の職員、及び保育園・保育室・家庭福祉員・幼稚園・類似幼児施設・無認可幼児施設の職員に対してアンケート調査を行った。 児童館・児童センターを利用している保護者及びピッコロハウスを利用している保護者へのアンケートは、各施設に回収箱を設置し、その場で回答していただいた。ひよっこに通っている子どもの保護者及びひいらぎに通っている子どもの保護者へのアンケートは、同様に回収箱を設置したが、記入済みの調査票を封筒に入れていただいてから回収した。子育てサークルは、西東京市社会福祉協議会にあるサークル名簿から調査対象を抽出し、郵送にて調査を行った。了解を得たサークルについては、更にヒアリング調査を行った。保育園・認可外保育室・家庭福祉員・幼稚園・類似幼児施設・無認可幼児施設の職員は郵送（保育園は交換便）にて調査を行った。 入力作業、分析、及び議論は、私の大学のゼミ生が行った。 資料 「子育て支援団体等アンケートの結果」概要をもとに、アンケート結果を簡単に紹介する。

	<p>児童館・児童センターの利用者（保護者）へのアンケート結果： 6ページを見ると、問7「この施設を利用して良い点は何ですか。」という問いに対し、49.5%が「子育て中の人（保護者）と友だちになれること」と回答している。3ページを見ると1歳6ヵ月から就学前までの子どもの利用が多くなっている。6ページの間9からは、ピッコロハウスの利用が少ない（14.7%）ことがわかる。</p> <p>乳幼児交流施設（ピッコロハウス）の利用者へのアンケート結果： 15ページの間2を見ると、子どもが2歳未満までの保護者の利用が多くなっている。また、16ページの間4では、25分以内で来られる人が利用していることがわかる。20ページの間7「この施設を利用して良い点は何ですか」では、45人の回答者のうち、35人（回答率77.8%）が「子育て中の人（保護者）と友達になれること」と回答した。ピッコロハウスの利用者は、児童館の利用者よりも、親どうしのつながりを重要視していることがわかる。</p> <p>ひよっこに通っている子どもの保護者へのアンケート結果： 回答数が少ないため、結果を事例的に掲載している。また、プライバシーの問題があるため、個別の結果は載せていない。</p> <p>ひいらぎに通っている子どもの保護者へのアンケート結果： 13ページの間11にあるように、子育て支援計画に対する要望を聞いた。障害への理解、親の対策（親のケア等）を希望する回答が比較的多かった。</p> <p>保育園・認可外保育室・家庭福祉員・幼稚園・類似幼児施設・無認可幼児施設の職員へのアンケート結果： 各施設で話し合っていて、意見をまとめた上でアンケートに答えていただいたのだが、職員ひとりひとりが回答した施設があり、作業に時間がかかっている。結果の分析については現在作業中である。</p> <p>子育てサークルへのアンケート結果： もともと知り合いだった人たちでつくったサークルが多かった。従って、サークルに関する情報が上手に市民に公開されなければ、新しい人たちが既存のサークルに入ったり、市民全体にサークル活動を広めたりすることは困難な状況である。</p> <p>古荘委員 ひいらぎに通っている子どもの保護者へのアンケート結果は、保護者の実際の要望の約7割が表れていると感じる。子どもをひいらぎに通わせている親は、なるべく保育園や幼稚園に子どもを入れたいと思っているが、小学校に入るまでひいらぎに通わせている場合が多いのが現状である。親は、できるだけ地域の人たちと同じようにしたいと思っている。</p> <p>有澤副委員長 「子育てサークル」とは、どのようなサークルのことか。</p> <p>森田委員長 公開をしても構わない（市民に紹介しても構わない）という了承を社会福祉協議会にしている、子育て中の人や子どもを対象にしているサークルをここでは「子育てサークル」としている。社会福祉協議会が申請のあった団体を既に「保育」「スポーツ」等に分類しており、その中から子育てや子どもの育ちに関係がありそうな団体全て（約50団体）を調査の対象とした。 西東京市では、サークルへの助成は行っているか。</p>
--	---

事務局 (田島)	児童館を拠点としている「母親クラブ」のような団体には助成があるが、一般のサークルには助成していない。
森田委員長	子どもによる子ども調査は、現在、結果を分析中である。本日午後3時から保谷小学校にて、調査を担当した小学生と一緒に調査結果について検討する予定である。また、2月28日には、市内中学校にて中学生と一緒に調査結果について検討する予定である。
議題3 「西東京市子どもデータブック」について	
森田委員長	<p>「西東京市子どもデータブック」は、来年度策定する子育て支援計画の中間報告の意味を持ち、子育て支援計画の土台になるものである。完成は平成15年3月を予定している。市民の方々にも読んでいただけるようなデータブックにしたいと考えている。</p> <p>資料 及び は作業部会で検討し、用意したものである。</p> <p>資料 「西東京市子どもデータブック」のレイアウト(案)は、データや文章が全て入っていないため、全部で67ページになっている。最終的には80ページから100ページ程度にしたいと考えている。</p> <p>序章では、基本的なデータを掲載する。資料 に既にいくつかデータを載せている。1章から4章の柱は、昨年度の子ども福祉審議会の答申にある、子育て支援計画の4つの基本方針の柱である。基本方針をもとに計画を策定していくことを意識するためにこのようにした。</p> <p>資料 「西東京市子どもデータブック」の目次構成(案)の第1章以降の「記述すべき内容(要点)」は、子ども福祉審議会の答申にあった言葉を入れながら作成した。「調査データ(平成13、14年度)等」及び「施策・事業データ等」は、昨年度及び本年度実施した調査の結果や市内外の事業及び施策のうち、各項目に該当するものをメモとして記述している。</p> <p>資料 の14ページを見ながらページ構成を説明する。「要約」では、調査結果や事業データ等を要約し、「まとめ」では、調査結果や事業データ等を踏まえた考察を行う。15ページの「調査データ」「施策・事業データ」「市民活動データ」で各データを掲載する。「施策・事業データ」「市民活動データ」の下に「-」とある。これは、現段階で掲載できるデータがないことを意味する。「-」がある項目で掲載できそうなデータや事例に心当たりがあれば、教えていただきたい。その他にも、西東京市の特徴的な、あるいは計画の土台になるようなデータや事例があれば教えていただきたい。</p> <p>では、1ずつ確認しながら進めていきたいと思う。データブックの章立ては、子ども福祉審議会の答申にある、子育て支援計画の基本方針に基づいた章立てにするとということではどうか。</p>
委員全員	- 異議なし -
森田委員長	節については、進めながら確認していきたいと思う。
序章 基礎データ」について	
森田委員長	多くのデータは、5年間から10年程度を目安にして経年変化を示している。旧田無市と旧保谷市のデータは、合算できるところは合算している。
川又委員	「就学前」という言葉が使われているが、学校教育を中心に考えているという印象を与えるのではないかと。「乳幼児」という言葉のほうが適切だと思う。
森田委員長	「就学前」や「未就学」という言葉を使わず、「乳幼児」という言葉を使うということではどうか。
委員全員	- 異議なし -

武田委員	発達障害児のデータを入れてほしい。現在、国のデータはないが、スクールカウンセラーから親に対し、「お子さんは発達障害ではないでしょうか」という声かけを行う取り組みが進んでいるのではないかと思う。親も社会も認知していないようなデータを入れられるとよいと思う。
森田委員長	序章に入れるか、それとも個別の項目に入れるか、ということを考える必要がある。4章の中に障害を持つ子どもの項目がある。
武田委員	障害の項目の1項目として発達障害児に関するデータを掲載するほうがよいと思う。
森田委員長	発達障害児に関するデータはあるだろうか。
武田委員	今年に入り、子どもが発達障害であることを、スクールカウンセラーから教えてもらった親を何人が知っているのか、この取り組みは進んでいるのではないかと思う。また、今年度中に発達障害を持つ子どもの数を調べるよう、文部科学省が指示していることから、既にある程度の調査が進んでいるのではないかと思う。
有澤副委員長	行政に専用の施設があれば、その施設に入るように声かけが進む。西東京市の場合、昨年度に情緒障害の通級ができ、今年度に入って言語障害の通級ができた。これらの通級ができたことにより、学校の先生方は意識的に保護者に声かけをして、例えば保護者に教育相談課へ行くことを勧めるようになった。
森田委員長	小学校で具体的な調査が行われたことはあるか。
有澤副委員長	保谷小学校では、言語障害の通級ができたときにアンケート調査が行われた。しかし、当時は先生方に通級のイメージがあまりなかったため、通わせたい子どもというのは、数にあまりあがってこなかった。
田口委員	ADHD（注意欠陥/多動性障害）は、判定が困難なため、ADHDに関する相談はあっても、ADHDと判定されているケースがあることを自分は知らない。障害を持つ子どものための学級数や在籍数を示すほうが確実ではないか。
森田委員長	確定していないデータは、基本的に掲載することはできない。資料の11ページ、13ページに小学校と中学校の心身障害学級数がある。障害を持ちながら普通学級に通っている子どもはいるが、例えば、障害の項目で心身障害学級に通っている子どもの数を示してはどうだろうか。そのほか障害手帳を持っている子どもの人数を掲載することが考えられる。 子育て支援計画を策定する上で必要なデータを掲載することを意識する必要がある。確定していないものについても、計画に入れる必要がある事柄については、議論することができる。また、ADHDのように、医療の側で確立していても現場では判断が困難なことについては、施策をつくる段階で調整が必要になると思う。
武田委員	法律上は認定されていない、障害を持つ子どものデータを載せてほしい。例えば、障害に関する相談の件数を掲載してみたらどうだろうか。
森田委員長	教育相談については、「相談」の項目で取り上げる予定であるので、相談内容別に実績が掲載されることになる。
田口委員	11ページと13ページで心身障害学級数を「*」で表示するのではなく、きちんと表などで示すほうがよい。

	1章 子ども参加」について
森田委員長	資料 を見てほしい。「1-1 子どもの権利の尊重」では、子どもの生活の特徴、権利意識や実現度、悩みや相談の状況について示すことを考えている。1-1-3 は、「子どもの救済」という言葉を使っている。これは、相談、問題解決、及び次の段階を迎えるプロセスのことである。
コンサルタント (高屋)	資料 で、灰色の網掛けがある項目は、他の項目と重複して掲載されているものである。どの項目に入れるのが適切か、検討中のものである。また、掲載されている調査結果の項目や事業データが全て入るということではない。素材として挙げているということである。特に、昨年度行ったアンケート調査は、昨年度作成した報告書もあるので、詳細に示すのではなく、ある程度分析した内容を掲載することを作業部会のほうで確認済みである。
川又委員	「1-1-3 子どもの救済」の「施策・事業データ等」の「 障害の発見から対応までの流れ」に、作業部会で確認した「病気」が入っていない(「病気や障害の発見から対応までの流れ」にする。)
森田委員長	そのように修正する。
武田委員	1-1-3 の「施策・事業データ等」の「 長期欠席者の状況」にある、「長期」の定義は何か。
森田委員長	文部科学省の定義である。現在は、延べ30日以上の欠席のことである。
武田委員	保健室登校は含まれているのだろうか。
田口委員	昔は保健室登校について調査を行っていたようだが、最近は行われていないと思う。
森田委員長	数値としてデータブックに出せなくても、コラムを掲載する手段もある。例えば、保健室登校について養護の先生やスクールカウンセラーの方に、それぞれの立場から見た子どもの状況について書いていただくことが考えられる。
田口委員	掲載するデータについては、公表してよいかどうか、教育委員会等に確認する必要もある。
森田委員長	協力が得られるのであれば、学校現場での子どもによる相談について、養護の先生やスクールカウンセラーの方にコラムのようなものを書いていただき、教育委員会にそのような情報があればそれを掲載する。このように、数として情報がないものは、コラムのような形で掲載していきたいと思う。 学校で子どもの生活実態等を調査しているか。
田口委員	保谷中学校では、PTAで行ったものがあると思うが、データブックに載せるような内容のものはないと思う。
有澤副委員長	保谷小学校のPTAでは、保護者に対し、保護者会の出席について行った調査はある。出席状況、子どもを預かるようにしたら出席するかといったことを聞いていた。
武田委員	保健室で子どもの生活に関する調査を行っていた。何時に起きて、寝て、ということを一週間くらい続けて行っていた。
有澤副委員長	養護部会にデータがあるかもしれない。

森田委員長	「1-2 子ども自身の参画への支援」に移りたいと思う。「1-2-1 子どもを支える地域のシステム」では、子どもたちの自主的な活動を地域がどのように支えているか述べたいと考えている。資料 にある情報のほかに何かあるか。例えば、学校を中心とする地域のネットワーク図、あるいは学校がどのように地域と関わりを持っているかという情報はあるか。
田口委員	当校はない。校長会で確認することはできる。
有澤副委員長	育成会が行事を行うときに、資料 (1-2-1 の「施策・事業データ等」の)にあるほかに、ボーイスカウト、その親、防災、防犯などの団体が参加することがある。各団体の代表が学校へ来てくださったり、自治会があるところでは、学校に関わっておられる組織の方のリストを自治会長から頂いたりしたことがある。
本間委員	現在2つの学校運営連絡協議会に属している。協議会のメンバーは、自治会長、野球チームの指導者、PTA、商店街の方などで、1つの学校運営連絡協議会は20名程度である。
有澤副委員長	ただ、学校運営連絡協議会は、学校運営のための協議会である。地域で子どもを支えるという意味では、例えば、校庭開放の協議会がある。
森田委員長	できれば、有澤委員と田口委員に1-2-1の「施策・事業データ等」のネットワーク図の作成にご協力いただきたい。学校に通っている子どもたちが、地域の人々にどのように支えられているか、学校と地域の連携がわかるとよいと思う。
安藤委員	交通や消防の関係で子どもが活動しているかもしれない。そのほか、町内会の子どもまつり、青年会議所主催の相撲まつりがある。
田口委員	当校では、地域の色々な組織との関係はあるが、地域の組織間のつながりについては把握していない。
有澤副委員長	保谷小学校の場合も同じで、協力を依頼すれば喜んで協力してくださる地域の方々はたくさんいるが、地域の方々どうしの連携については把握していない。
森田委員長	学校から見た学校と地域の連携という形でもよいと思う。
本間委員	自分の地域の育成会には、小・中学校の先生が入っている。
有澤副委員長	地域によって違うようである。保谷小学校の育成会には学校の先生は入っていない。
森田委員長	「1-2-2 集う・遊ぶ・学ぶ」では、「集う」「遊ぶ」「学ぶ」をキーワードにして子どもたちの状況を示していきたいと思う。「集う」では、子どもたちがどのように集ってどのような活動をしているか、「遊ぶ」では、子どもたちの遊び(個人的なものではなくて、組織的な遊び)について、「学ぶ」では、週5日制の影響などによる子どもの学びの機会について示したいと思う。
武田委員	「学ぶ」についてだが、ボランティアや社会参加の経験についても触れてほしい。
森田委員長	2章に「2-4 他者を援助できる力」(資料 の7ページ)があり、そこでボランティアについて記述することを考えている。

武田委員	「自分の要求を実現していく力」というような項目を設けてほしい。あと、自習室が足りないことも触れてほしい。北町のふれあいセンターは部屋が空いていれば自習室として開放しているので、利用実績がわかるかもしれない。
有澤副委員長	公民館にも自習室があるかもしれない。
森田委員長	ここでの「学ぶ」とは、自ら学ぶための条件がどの程度整っているかということが重要になる。
有澤副委員長	「学ぶ」の「記述すべき内容」にある「整理する項目」は、他にも項目があると思う。
田口委員	ここでは、西東京市として何を課題とするか、ということの整理をする必要があると思う。
森田委員長	「1-2-3 子どもと情報」では、学校や地域を通じて、情報が子どもにどのように伝わっているか示したいと思う。地域の情報が子どもに伝わりにくいという状況も取り上げたい。
田口委員	学校ではどのような情報教育が行われているか記すとよいのではないか。また、パソコンを自由に使うことができる場所がほしいと本校の中学生からよく聞くので、居場所づくりとして捉えることができる。資料では学校の情報教育は1-2-2(3)の「学ぶ」に入っているが、「1-2-3 子どもと情報」に入れるほうが適していると思う。
森田委員長	学校をとりあげることについてはどのようにお考えか。学校教育を正面から取り上げるのではなく、学校が子どもの生活に影響する部分について取り上げる必要はあるのではないかと考えている。
武田委員	学校はぜひ取り上げてほしい。親どうしは学校で出会い、知り合いをつくることによって親自身が育っていく。親どうしが知り合い、育つという仕組みができる場所は、学校がとても効率的だと思う。また、地域に開いた学校という意味でも、学校、親、地域が協力しあって子どもを育てる場所であることを述べる必要があると思う。
森田委員長	場として何ができるかという問題と、人として何ができるかという問題がある。人というのは、例えば、教師が親の成長のためにできることがあるかということである。ただ、保育園や幼稚園では親の成長を含めて取り組みが行われているが、学校は難しい。学校はあくまでも子どもを教育する場所であって、学校の役割としては、場所を提供するのみという捉え方もある。
有澤副委員長	小学生の親をどう育てるかということは、最近大きな課題になりつつある。
田口委員	保谷小学校では親のために企画を行っている。当校(保谷中学校)の場合は、親の成長について踏み込んでいいかどうか、わからない。
森田委員長	子どもどうしが関わり合う場としての学校、親どうしが関わり合う場としての学校については述べるができる。問題は、学校教育そのものについてどこまで触れることができるかということである。
有澤副委員長	学校教育について触れるのは、行き過ぎだと思う。

森田委員長	不登校やいじめの問題は、学校教育と関係がないともいえない。概念的な部分になると思うが、学校教育に触れないわけにもいかないと思う。
田口委員	子育て支援計画が学校教育に求めるもの、という形で出すのはよいと思う。
森田委員長	学校教育については、子育て支援計画が学校教育に求めるものという形で取り上げるということでよいか。
委員全員	- 異議なし -
森田委員長	まちづくりや医療についてはもう少し踏み込んで述べていくことになると思う。例えば、昨年度のアンケート調査では、夜間診療の希望が非常に多かった。
川又委員	医療については、本日資料を持ってきたので、後ほどお渡りする。
2章 おとなになることを支える」について	
森田委員長	2章では、「2-1 経済的独立」「2-2 心身の自立」「2-3 親になっていく力（子育てする力）」「2-4 他者を援助できる力」「2-5 社会（地域）への参加」について述べる。「親になっていく力」という表現だが、あえて「大人になっていく」にしなかった。
有澤副委員長	「親になっていく力」にした理由は何か。
森田委員長	性の問題をとりあげるといことと、子育て支援計画の基本理念である「循環型の子育て」を意識したことが理由である。
武田委員	「2-3 親になっていく力」で、「共感の根」（永田陽子さん他による実践）のような取り組みを載せたらどうか。 「2-5 社会（地域）への参加」の「施策・事業データ」の「祭り」で、東京都のモデル事業がある。学校を核として実行委員会がつくられ、取り組みが行われている。
川又委員	酒、たばこ、薬物について触れられていない。
森田委員長	「2-2 心身の自立」を、自分自身を大切にするという意味で捉えると、この中に入るかもしれない。情報はあろうか。
川又委員	警察にあるかもしれない。
田口委員	意思決定について触れる項目もほしい。
森田委員長	枠組みを含めて再度作業部会で検討したいと思う。
3章 子育て家庭の支え合い」について	
森田委員長	「3-1 子育て事情」では、「3-1-1 子育て意識」「3-1-2 子育ての状況」について述べる。「3-2 子育ての支え合い」では、「3-2-1 子育ての支え合い意識」「3-2-2 子育てに関する支え合いの状況」について述べる。また、3-2-2 では、「学習の機会」「交流」「相談」「情報提供」について述べる。

	4章 市民参加型の子育ちと子育て家庭支援」について
森田委員長	4章は、西東京市、東京都、国といった公共の施策の部分である。「4-1 子どもと家庭の支援」では、「4-1-1 子育て期の支援」「4-1-2 障害のある子どもを育てる家庭の支援」「4-1-3 外国籍の子どもを育てる家庭の支援」「4-1-4 ひとり親家庭の支援」について述べる。「4-2 保健・医療」では、「4-2-1 母子保健体制の整備・充実」「4-2-2 医療」について、「4-3 教育」では、「4-3-1 学校教育」「4-3-2 社会教育」「4-3-3 子ども・子育て家庭支援者の育成」について述べる。そして「4-4 子ども・子育て家庭のためのまちづくり」がある。
森田委員長	<p>今後の予定 最後のほうは、時間がなくあまり議論ができなかったが、今後のスケジュールを確認したいと思う。</p> <p>資料 作業スケジュール(案)を見ていただきたい。2月18日に作業部会がある。資料 のデータは、全ては掲載できないので、資料 のデータリストの中で重要だと思われるものに印をつけて、13日までに事務局に送ってほしい。また、追加的なデータ、言葉や表現の修正の希望があればあわせて伝えてほしい。お送りいただいた意見をもとに、データブックに掲載するデータについて作業部会で検討したいと思う。</p> <p>データブックの素案は、次回の委員会の前にお送りしたいと思う。また、各委員にデータブックの執筆にご協力をお願いすることになると思うので、よろしく願いしたい。執筆の担当は、18日の作業部会の後にお知らせすることになると思う。</p>
事務局 (田島)	<p>第7回西東京市子育て支援計画策定委員会の日程 日：3月7日(金) 場所：田無庁舎5階503会議室</p>
森田委員長	閉会宣言